

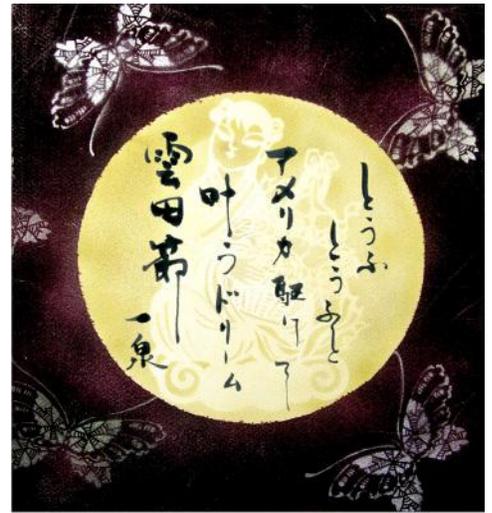


チャロンボロンの会は、シニアの方
たちが、生きがいを持って、人生を楽
しみ、健康で長生きすることを目的と
しています。シニアだからこそ言える
苦言、提言、さらに、社会奉仕まで、
参加される皆様と一緒に考え、つくり
上げていく会です。

風に揺らいているチャロンボロンな
葉っぱであっても、その木の根っこは
長い人生を歩んできた分、どっしりと
深く広がっているシニアの木。その
「シニアのシニアによるシニアのため
の会報誌」が、「かわら版」です。

今後のチャロンボロンの会、並びに
「かわら版」をどうぞよろしくお願
い申し上げます。

ち
わ
ら
ん
ぽ
ら
ん



とうふうとアメリカ駆けて

叶うドリーム雲田節

十六代 尾藤川柳こと

方船にニホンを残して雲田ゆく

十六代 尾藤川柳

*この句が書かれた色紙は P.13 にあります。

会えずとも遺志継ぐ友の道しるべ
肉体を脱ぎ去る御霊風光る

池の本和美

「かわら版」はボランティアの方々のご支援により発行されております。従って、発行部数も限られておりますので、お読みになりましたらポイッと捨てずに、お知り合いの方にお渡し下さいませようお願ひ申し上げます。多くの皆様に読んでいただけたら嬉しく思います。



▼初対面ではガンガン押し強いおじさんだなと思っていた。しかし、その著書を読ませていただき、米国での偉業を知り、そして、お国から勲章を授与されるなど、本来であれば、私などが気軽に声をかけできる方ではないはず。なのに、いつでも気さくで、立場や年齢の差など全く感じさせない立ち居振る舞い。

「おう、良いねえ〜」そんな言葉がそのままの声で今でも聞こえてきます。

そして、まだフツと電話をくれたり、角を曲がればそのお顔が見えるのでは、そんな気がして仕方ありません。

雲田さん、ありがとうございました。

今後もしつと、雲田さんにお礼を言う場面が、私の人生にはたくさんあると思います。

▼第一回となったL A川柳グランプリを無事終え、入賞者の中には、雲田さんにむけての句もあり、またチャランポランの会には雲田さんの大切な仲間土田さんや宮田さんも仲間入りしてください。確実に雲田遺伝子は継承されています。

さて、チャランポランの会、次は何をしましょうか？ ぜひ、皆さん一緒に楽しみましょう。(か)

● P.17.のクイズの答え

正解は1番の毛です。サイの角には骨がなく、中に空洞等ありません。ケラチン質(毛髪)できています。つまり「毛」が固まったものです

▼コロナウイルスが猛威を振るい、とうとう世界各地に広がってしまいました。このウイルスは自然のものではなく人為的に作られたものだとの噂もあり、そうだとすると、人間の作る物には殺すものもあれば、生かすものもあり、本当に考えさせられることばかりです。言葉もそう、ナイフのような言葉ではなく、心をあつたかくさせる言葉を使っていきたいものです。

さて、そんな最中、コロナ云々をヨソに來米して下さった尾藤川柳先生と着物がお似合いのジャスシンガの池の本和美さん。本当にありがとうございました。お蔭様で第一回L A川柳グランプリも無事に終わることができ、ホッとしました。川柳の奥深さや歴史もわかり、なるほど！と思う事ばかりでした。日本の文芸「川柳」侮れません。

▼1月末の交流会、大盛況でした。ポケ防止クイズも好評でしたので、次回の交流会でも行いたいと思います。次回の交流会は秋、奮ってご参加下さい。

▼発起人の雲田さん、いつものお顔が見られないのは淋しい限りです。ただただ、ご冥福を祈るばかりです。尾藤川柳先生から川柳の追悼句と都々逸を、池の本和美さんからも追悼句を頂きました。ありがとうございました。(あ)

私と川柳

石口 玲

私が川柳を会に入ってから本格的(?)に始めたきっかけは、友人の写真展で川柳研究家の関三脚氏に会ったからです。3か月口説かれて(?)川柳を始めました。兎に角、作句、作句の作句漬けでした。いい加減なものばかりですが数えたら1年で360句以上ができていました。解らないながらも、作っていると白紙の上に色がフッと現れてくるようになります。時には薄い灰色、時には真っ赤という風に、色が見えて来るんです。知らず知らずのうちに、川柳のリズムを頭だけでなく肌が覚えてきます。

アレ!? 長屋の共同井戸端にしゃがんで熊さんの女房、お清さんと話している自分がいます。「飲んだくれて昨日帰って来てさー」なんてお清さんが愚痴を言う。オチャッピー娘のお玉ちゃんがコマっしゃくれて話します。「そんなことまで言うんじゃないよ!」慌ててお清さんが止めます。笑って聞いている私。260年の時間が吹っ飛びます。江戸の時代も今のママ友会話も大して違わないな。

そこで目が覚めました。何だ夢か。気持ち良い朝の目覚めです。

22年前、私は主人を亡くしました。落ち込んだ気持ちも時間が解決してくれました。冥土在の夫との会話や、二人の思い出を川柳に託します。亡夫から《早く来い此処は静かで良い所》私《まだ逝かぬ土産話がチト足りぬ》。

いつの日か川柳をいっぱいぶら下げて、主人との再会を夢見ます。写真屋の私は写真と川柳をコラボし、写真川柳に今夢中。スライドショーもBGM付で製作中です。

パイオニア川柳に所属して10年。自分で立ち上げたEメールでの日米交信川柳会、浪漫川柳句報も85回。7年目を迎えました。今の私にとって《川柳は我が父母亭主飲み相手》です。川柳は口語体で、季語も切れ字も要りません。肩も凝らず簡単に出来ます。想いを吐き出すことは、ジャズにも似ています。私は此処に住んでいる、此処でしかできない川柳を心がけています。自分の夢や悩み、怒りや悲しみ、泣きも、笑いも川柳によむのです。毎日が自然に楽しくなってきました。

写真川柳 : https://www.youtube.com/watch?v=vPPa3_Ps1fw

浪漫川柳 : sleavens@live.com

SENRYU : c/o Pioneer Center 244 S. San Pedro St., #301 Los Angeles, CA 90012



おたより

- とても楽しく読みました。これからも続けて発行されますように!ありがとうございました。Y.H. (CA)
- とても面白そうな会で楽しみにしています。I.H. (CA)
- もっと、色々なところで交流会を開いてほしい。H.S. (CA)
- この会は楽しく為になりそうですね。A.U. (CA)
- 俳句、短歌などもあったら面白いと思います。T.K. (CA)

■アメリカに暮らす日本人のシニアの人々に勇気と生きがいを教えて下さるこの「かわら版」にとっても嬉しく思います。これに携わる方々のご苦勞を思いながら有難く読ませていただきます。K.F. (WA)

●ちゃらんぽらんと余生を楽しく生きるよう心がけます。S.S. 89歳(CA)

建
国
史
上
の
慣
習
や
政
の
礼
節
も
在
っ
て
無
き
に
等
し
い
こ
の
政
権
下
6
0
年
過
ぎ
た
今
、
行
く
先
の
な
い
U
タ
ー
ン
を
す
ら
想
う
さ
す
ら
い
士

■前回、交流会へ初参加して知ったのですが、きっと大赤字を出しながら、他の人が幸せな人生をこのアメリカで過ごせるようにと努力なさっていることがはつきりわかりました。頭が下がる思いです。感謝。S.C. (CA)

●「第一回川柳グランプリ」は大変楽しい時間でした。入賞句を詠み上げるトーンに江戸の当時がかの如くであった様な感じがして、川柳を詠んで集まり楽しんだ人達を思い描きました。関係皆様、本当にお疲れ様です。日本との関係も絆が繋がり、今後の川柳の道に大きな光が見えた、今回のイベントだったと思います。時折又この様な催し期待したいと思います。ジャズシンガーの池の本さんのテネシーワルツ、懐かしみも有り聞き惚れました。家に帰りユーチューブで再度聞き直しました。紙谷トム

美しい顔をしていた。友だちの家の雛は、いわゆる御殿雛で、大きかったけれど、少しも羨ましくなかった。小さくても良い物を選んでくれた父の美意識を子供心にも理解していたのだと思う。

幼な日のわが掌の上の木目込みの五人囃子の雛あどけなく

父が私に遺してくれたものはこの美意識だと言いたいけれど、やはり私は父には到底及ばない。父はゴテゴテとしたものが嫌いだった。家の台所の引き出しにあったスプーンやフォークさえ、柄には何の飾りもないプレーンな物だった。この父の好みが最も端的に表れた小さな事件を子供の時に目撃している。それは唐紙を貼り替えた時に、その唐金の引き手が、今までのシンプルな楕円形のものから、それこそゴテゴテと飾りのあるものに付け替えられていたのを見たときの父の怒り方だった。いきなり「なぜ勝手なことをするっ！」と出入りの経師屋を怒鳴りつけたのだ。

私が小学校にも上がらない前のことだったが、よほどびっくりした

ものと見えて、強烈な印象となっていた。まだに忘れていない。父が他人を怒鳴るなどというのも初めて見たし、他人の趣味を押し付けられるのを、それほどに嫌う父というのも、その時初めて知ったような気がする。少し痲痺もちのところが差し引いても、父の怒るのもムリないなと今は思う。その時、座敷にはなぜか父と私だけが居た。とりなしてくる母も居らず、経師屋は平あやまりに謝って、すぐに付け替えますからと言って引き取っていった。

この事件について私は一度も父と話をすることがなかった。話せばこんな何十年前も前のことを覚えていて私に驚いただろうと思う。そして何と言っただろうか。知りたくても、もう叶わない。生きていくうちに、もっと話をしておきたかったと思うことが、この一年、幾度あったことか。こんな些細なこと、積み重ねから、父が本当に逝ってしまったというのを、自分に繰り返し言い聞かせ過ぎた一年だった気がする。

一九九四三月三日 記



チャランポランの会 第二回 シニアと子供の交流会

昨年のシニアと子供の交流会が大好評で、今年1月31日に2回目の「シニアと子供の交流会」がロミタ市の西大和学園で行われました。今回は子供たちによる、様々な発表会やパフォーマンスもあり、子供



1.31.2020



桃の花

エッセイ集

「かけがえのない感動」から



鈴木敦子(すずき あつこ)

エッセイスト、胡桃短歌会主宰。
2018年の新春恒例の宮中行事「歌会始の儀」で2万人を超える応募の中から厳しい選考の末に入選。10人の一般入選者の一人に選ばれた。その時、詠まれた歌が『母国語の異なる子らよ母われに時にのみ込む言葉もあるを』。全米でも短歌人口の多いカリフォルニアからは22年ぶりの入選者となる。

今日は三月三日、この稿を書いて
いる部屋から、桃の花が春の陽光
に輝いているのが見える。早春か
ら春へと移りゆく花の、梅、桃、
桜の中でもとりわけ桃の花が好き
だ。童女のような稚気(ちぎ)が
あって、鄙びていて、可愛くて、
華がある。桃が咲くと雛とすぐ結
びつけるのは女だけの感覚だろう
か、今年も私は小さな木彫りの雛
を飾り、桃の花を壺に挿した。

外つ国(とづくに)に住み古(ふる)り
につつ桃咲けば雛を飾りぬ娘(こ)の
なきわれも

皇太后陛下は日本画をお書きに
なっていたが、その雅号は「桃
苑」であった。「あった」と過去

「比奈舍笛歌作(御立雛図)」



形で書いたのは、すっかりお年を
召された現在、もう絵は画いてい
らっしゃらないご様子だからであ
るが、二十年ぐらい前までの、当
時の皇后さまのふくよかで、明る
い笑顔に、この「桃の咲く苑」と
いう雅号がお似合いだと思つたも
のだった。

画集も出されているが、のびやか
で、ほのぼのとした、いい絵をお
書きになっていた。皇太后さまの
若い時のお顔は、現代的な容姿の
最近の妃殿下方とちがって、それ
こそ内裏びなのようだった。

日本画といえ、二、三日前に雛
の絵の掛け軸にかけ替えた。その
箱書きには「比奈舍笛歌作(御立雛
図)」とある。西澤笛歌という画家
で、大正から昭和にかけてだと思
うが、雛人形を画かせては、当代

一と言われた人らしい。
わたしが結婚する時、父

は何本かの軸をくれた。外国に嫁
いでいく娘に、箆箭などの道具を
持たせてやれないからということ
だったと思うが、私にはこうした
物をいろいろ持たせてくれた。

その中でも、この「立雛」の軸
は、その凝った表装といい、価値
のあるものだということであった
が、そのことは別にしても、父は
この絵がとても気に入っていて、
私にくれる時も、「大切にするよ
うに。しまい放しにせず、毎年掛
けるように」と言った。言いつけ
を守って、桃の花が開花する頃に
は、桐の箱を開けて、強い樟脳の
匂いを嗅ぎながら、この軸を掛け
る。

子供の頃から見馴れているのに、
その都度「ああ、いい絵だな」と
見惚れてしまうのが常であった。
その父も、昨年亡くなり、いわば
形見ともなった軸を一入(ひとし

お)の感慨をもって暫く見入ったこ
とだった。

こうして、雛や桃を飾ると、思い
はいつも杳い子供の頃へと還って
いく。それも何故か生まれ育った
東京の家ではなく、一時期住んで
いた金沢の家の床の間に飾られた
雛が目につく。その家は、加賀
百万石の前田家の家老が住んでい
たという、土塀を巡らせた、ただ
大きいだけの古い屋敷で、子供の
私には馴染めなかったが、雛を
飾っている間だけは、その奥座敷
が好きだった。

明るい東京の家に飾られていたの
と同じ物とは思えないほど、格式
のある床の間に、しっくりとつけ
込んで、目に沁みるような美しさ
があった。雪国の厳しい冬が去
り、春の訪れを告げるような晴れ
やかさがあった。子煩悩な父は、
四人の娘が生まれる度に何か買っ
ていたのだろうか、お祝いに貰っ
たものも多かったのかもしれない。
大きな床の間に置ききれない
ほどの人形や道具が飾られ、眺め
ても眺めても飽きることがなかつ
た。その中でも中心となっていた
のは、木目込みの雛の一揃いであ
る。一つ一つの人形は、掌に乗る
ような小さなものだったが、京都
の有名な人形師が作ったのだとい
うその人形は、それは気品のある



ミュージカル「葉っぱのフレディー-いのちの旅-」のカーテンコールで出演者と手をつなぐ日野原重明さん（前列中央左）。同右は俳優の宝田明さん＝平成20年8月（栗橋隆悦撮影）

《ミュージカル公演》

この本に大きな感銘を受けたのが当時聖路加国際病院の理事長だった日野原重明先生（1991年―2017年）でした。「四季の移ろいの中で変化する葉っぱの姿は、人間の一生そのもの。いのちは巡るといふ根源的なテーマを描いている。いのちの大切さを伝えるこの物語を子供達にも教えよう」と決心なさったそうです。そして彼自身が企画し、脚本を書き、実現したのが「葉っぱのフレディー」と題されたミュージカルでした。89歳の時でした。2000年に初演され、その後日本各

地でロングランとなりました。先生は同時に日本中の学校で「いのちの尊さ」を訴える授業をなさいました。

2010年にはニューヨーク公演も実現しました。日野原先生の願いは「人間は必ず死ぬ。でも、大きないのちの流れは続く。米公演で日米友好、文化の懸け橋になれば」でした。公演は大成功でした。ミュージカルのフィナーレの部分には99歳の日野原先生も舞台上上がり、子供達と一緒に踊りました。先生には『フレディーから学んだこと―音楽劇と哲学随想』という著書もあります。100歳を越えても現役として患者の治療に励まれた先生でしたが、2017年、心不全のため、105歳でお亡くなりになりました。

《ドクター日野原》

日野原先生は医療に誠心誠意努力される傍ら、さまざま活動にも従事されていきました。先生は1970年に「よど号ハイジャック事件」に遭遇し、無事に生還した後、自分の命は社会のために使おうと決心なさった

そうです。また1995年の「地下鉄サリン事件」の際はいち早く救急治療チームを結成し、彼が理事長を務めていた聖路加国際病院をサリン事件の被害者の受け入れに提供しました。「生活習慣病」の名付け親も日野原先生です。私は先生がジョン万次郎を助けたホイットフィールド船長との絆を日米友好のシンボルとする活動をなさった際にお会いしたことがあります。

先生は古くなり傷みつづあったホイットフィールド船長旧宅を買い取り、修理し、博物館とするための資金獲得にも活躍され、1億円の基金で持つて、見事に完成なさいました。私の大阪に住む知人はそのためにジョン万次郎をテーマにした子供向けの絵本を出版しました。博物館のオープニングセレモニーでの日野原先生の流暢な英語での挨拶は「ジョン万次郎が日本人として初めて英語での高等教育を受け、日本人で初めての日英辞書を作った勤勉さを称え、そして日本の漁師の少年を助けて自宅で生活させ教育を与えたホイットフィールド船長の善意に感謝する」ものだったそうです。

《西海岸で公演を夢見て》

日野原先生の生き様と「葉っぱのフレディー」に感動したのが、「かわら版」第3号の「素敵な人みつけた！」の記事に取り上げられている中村恭子さんです。チャランポランの会の会員でもありません。2010年にニューヨークで行われたミュージカルを今度は西海岸のロサンゼルスで実現したいと願い、その夢に向かって奮進中です。2月末に都ハイブリッドホテルで開催された彼女の渡米60周年、ハイ・ゲンキ米国展開30周年記念パーティには同ミュージカルの企画・演出を担当なさった犬石隆さんを招待し、「葉っぱのフレディー」の朗読、ビデオ映像なども行われました。いのちある限り夢に向かって努力する中村さんの夢の実現を心から祈っています。

中村さんは現在84歳です。89歳で初演し、99歳でニューヨークで舞台出演した日野原先生に比べると、まだまだ若いですが、頑張れ、中村さん！



鶴亀 彰

葉っぱのフレディと日野原先生

「葉っぱのフレディ」をご存知でしょうか？ 1998年に日本で『葉っぱのフレディ いのちの旅』という翻訳本が発売され、120万部を超えるベストセラーとなりました。出版社は「童話屋」

著者は「レオ・バスカーリア」、翻訳者は「みらい・なな」でした。一枚の葉っぱが春に生まれ、夏に茂り、秋に紅葉し、冬に散って土に還るまでの一年、つまり「葉っぱの一生」を童話にしたものです。童話ではありませんが、大人の心にも強く訴える名著です。人間の生と死を深く考えさせる本です。

人生の四季を「青春、朱夏、白秋、玄冬」と分けて呼ぶそうです。諸説あるようですが、作家の五木寛之さんは「生まれてから25歳頃までが青春、それから60歳頃までが朱夏、75歳頃までが白秋、そして75歳以上が玄冬」と著書の中に書いていらっしやい

ます。「絵に例えると、青春はクレヨン画、朱夏は色鮮やかな油絵、白秋が水彩、そして玄冬が水墨画」だそうです。「玄」は「玄人（くろうと）」というように「黒」を意味するそうです。となると、現在79歳の私は「玄冬」の時を過ごしていることになりました。

《葉っぱのフレディ》

著者のLeo Buscagliaは1924年にロサンゼルスで生まれ、1998年に74歳で亡くなったイタリア系アメリカ人二世でした。彼の名前のgはIと同じように発音されるのだそうです。南加大学の社会教育学部の教授であり、作家であり、モチベーション・スピーカーと呼ばれる哲学者でもありました。彼のPBS放送を通じての「愛」や「絆」や「生」や「死」をテーマにした講演は大いに人気を呼んだそうです。彼は敬

度なクリスチャンだったそうですが、若い頃にコロンビア大学で日本の禅の大家、鈴木大拙の講義を聞き、日本に旅し、鎌倉の禅寺で修行したこともあったようです。

原題は「The Fall of Freddie the Leaf」で1982年に出版されました。本を書くきっかけになったのは教え子の自殺だったそうです。そこで「人の命や死、人と人との結び付き」などを真剣に思考する中からこの本が生まれたそうです。しかし、当時、米国ではあまり売れなかったそうです。東洋的な匂いが米国の人々にはあまり馴染めなかったのかも知れません。その点、自然との共生の中から文化や人生観を生み出して来た日本人には、より身近に伝わるものがあつたのかも知れません。一神教よりも八百万（やおよろず）の神々を日々の生活の中に感じて来た日本人の感性により訴えたのかも知れません。

度なクリスチャンだったそうですが、若い頃にコロンビア大学で日本の禅の大家、鈴木大拙の講義を聞き、日本に旅し、鎌倉の禅寺で修行したこともあったようです。



Author
Leo Buscaglia
Publisher
Slack, Incorporated



著者：レオ・バスカーリア
絵：島田 光雄
訳：みらい なな
出版社：童話屋

チャランポランの会

第二回 交流会

2020年1月23日、カリフォルニア州のトーランス市にあるREDAC GATEWAY HOTELでチャランポランの会、第二回交流会が行われました。総勢約60名。奈良香織ターナーさんのビデオ上映やグループ毎に話し合って答えを出す「ボケ防止クイズ」など、笑いの中で時間はあっという間に過ぎていきました。

クイズゲームはグループ戦と個人戦がありました。下のクイズはグループ戦のクイズの一つです。参加者の皆さん、覚えてますか？

サイの角は何でできているのでしょうか？

4つの中から選んでください。

①毛 ②骨 ③歯 ④筋肉



2番を上げてるグループが多いですね・・・

答えはP23編集後記の後にあります。



次の交流会は
10月の
予定です！



素敵な人

見つけた

Vol. 4

佐藤松豊

豊かだと得られなかった

ハングリ―だから得られた

米国で民謡や大和楽など、邦楽の普及を行う佐藤松豊さん。その歌声は聴く人に驚きと感動を与え、日本人の生き様、感情、そして日常や歴史を、邦楽を通して伝え続けています。



松豊さんは大阪北区で生まれ。戦中疎開を経て大阪豊中の佃煮製造仲間屋の一人娘として育ちました。

どうやらおてんばさんだった松豊さんは、小さい頃から音楽が大好きで、6歳の時、親に内緒で声楽を学びはじめるのです。その後、オペラやクラシックの歌曲の発声なども学ぶようになるのですが、ある日、同級生が長唄を歌うのを聞いて、こんな声が出るのかと、その発声方法に驚くのです。こうしてこれまで洋楽に向いていた関心が、邦楽にも向けられるようになり、17歳で洋楽を学ぶのをやめ、邦楽の道へと進みました。その後、民謡、詩吟、琵琶の稽古にも励み、19歳になった頃、マークユリレコードの歌手募集に応募。300人位の中に混じってオーディションに参加するので、残念ながらオーディションには落ちましたが、一人の審査員の目に留まり、歌手への道を勧められたのです。また時を同じく、大阪で民謡をまとめていた山田絮洲先生の前で北海盆唄を歌った際、歌手になるために東京に行った方がいいと勧められたのです。

しかし、大阪商人の娘として生まれ育った松豊さんは、両親から詩吟や三味線などの芸事は素晴らしいが、それではご飯が食べていけないと反対され、芸能の道に進むならと勘当を言い渡されたのです。

その後、民謡の神様とも言われる佐藤松子家元の内弟子となるべく上京するのですが、親から勘当され上

京するためのお金もない松豊さんに、山田絮洲先生が片道切符を買ってくれたのです。

佐藤松子家元の内弟子生活は5年。親に勘当され、帰る場所もなく過ごす修行の日々は上下関係もあり、辛い事ばかり。稽古も、先生の手元を見る機会もなく、掃除をしながら、襖越しに耳だけで学ぶ日々でした。しかし、そんな中でも佐藤松子先生からの信頼は厚く、また期待もされ、内弟子が終わり、1966年に渡米をした後も、松子先生は松豊さんを後継者にしたいと願い、帰国を待っててくれました。

しかし松豊さんの米国生活はすでに55年以上。松子先生の元には戻りませんでしたが、今でも松子先生に近づきたいと芸を磨く日々を送っています。

小さい頃からやりたいことは必ず行動に移してきたという松豊さんの信念は、自分自身との競争はするけれど、他人との競争はしないということ。

今ではLAをはじめとして西海岸に多くのお弟子さんを抱え、孫弟子も増えてきた松豊さん。

そして、「私は車をどこに停めたかもすぐに忘れてしまうんです。きつと生まれもって、忘れる、消せる力を持っているんだと思うのです。だから、これからも過去は過去。未来にむけて進んで行きたいです」と笑顔で話してくれました。





土田氏、雲田氏が辿った道

- ① 日本からデンマーク
- ② デンマークからイギリス
- ③ イギリスから日本
- ④ 日本からロサンゼルス

然に連絡してきた。日本での仕事を捨てて、新たな世界への挑戦である。この大学は、男女共学で世界の20ヶ国から留学生が集まり、国際理解を学ぶことを目的としている。異民族、異文化に溢れる学び舎の環境は、青年時代の雲田さんに少なからぬ影響を与えた。「日本とは全く違う自由がある！ 青春もある！」彼の目の色が変わった。

《イギリスで就職》

縁は続く。

私は次の目標をイギリスに決めた。運よく、英国社会福祉事業の障害者施設に就職することができた。障害者も健常者も同等の権利と義務を保持し、個性を尊重する事業である。イギリスの人々の生き方は自然を愛でる姿勢で、日本人と似たものがある。言葉も相手を尊重する繊細な表現が多いから日本人には理解しやすい。

私はこの職場の状況を含めてイギリス情報を雲田さんに伝えた。そしたら雲田さんは、その施設に興味があるので紹介して欲しいと言ってきた。日本に戻る前にイギリスも理解しておきたいとのこと。モットモダと思った。直ぐに施設長にお願いして、ある施設を紹介していただいた。これで、雲田さんのイギリスでの研修が実現した。今度は学び舎ではなく、より責任のある職場である。異国で働く雲田さんの活躍が始まった。レジデント（男女の障害者）から「ヤス！ヤス！」と声がかかっていた。言葉は不自由ながらも彼は、レジデントの間を飛び

回って、軽快な動きだった。私は安心して自分の仕事に戻った。その後、雲田さんは再就職のため、祖国日本に舞い戻ったことを知った。

《再び日本》

その後6年振りに私は東京に戻った。Japan as No.1と言われた頃で日本はバブル景気であったが、私は倒産寸前の通訳会社に就職した。過去の体験を白紙とし、ゼロから再出発と決めていたので、会社の状況は意に介さなかった。廻りの蝉噪に閑与せず、早朝から深夜まで働いたら、会社の業績も次第に上向いた。結婚して子供もできた。そして89年、私にロス駐在の社命が出た。天は私を見捨てていなかった。

《ロサンゼルスで再会》

後で分かったことだが、雲田さんは日本に戻り、過去を清算して再就職。猛烈に働いた。結婚して子供もできた。そして、ロス駐在の社命を受けたのが1985年だ。どうやら日本に戻った我らは、似たような行動パターンであったようだ。この縁は天の采配だ。

ロスでの我らの仕事は申し合わせたように時間に追われたが充実していた。共に悲願の採算分岐点にも到達し、世のため人のための活動も意識し始めた。私的にも雲田さんとの家族交流も続いた。クルーズ等で何度も世界を旅した。男声合唱団、ゴルフ、勉強会や寿司アンザでの密会も数えきれない。「我らの人生はこれからだ」と将来計画も話した。

《一期一会》

しかし何の因果であろうか。雲田さんは断りもなく、突然に病で他界された。悔やみきれない無力感に襲われた。これから私がやることは、雲田さんが残された遺志を継いでいくことだ、と思った。

縁は異なもの味なもの、人生は一期一会。雲田さんとの出会いと50年間にわたる縁は、天から授かったかけがえのない縁であった。今度、雲田さんに会うときには「観音様の縁でこちらにきました！」と挨拶しよう。

合掌

土田 三郎

縁

1989年4月。日本はバブル景気が絶好調であった。私は「通訳翻訳事業と通訳研修事業をロサンゼルスで立ち上げよ」と、社命を受けて送り出された。ところが天の悪戯で翌年から一気に不動産市況が悪化し、バブルが崩壊し始めた。ロス赴任の身で「意地でも後戻りはせぬ」と、心に決めた。

《 激務の中での日々 》

苦闘が続く中で、夕刻になると、私の仕事の状況を知っていると、雲田康夫さんから激励の電話がかかってくる。「まだ仕事をしていないんかい。そろそろ喉が渴いていないかい？」 私が未だ生きていることを確認するためか、時には電話もせずに突然に会社に現れることもある。誘いの文句はワンパターン。「おい。まだ仕事をしていないんかい！」

そして一緒に居酒屋へ。「今日一日、お互いの無事に乾杯！」こ

のビールの何と美味しいことか！雲田さんの暖かい配慮とカリフォルニアの気候に感謝する。その頃は二人とも激務の合間にコミュニケーション活動として日系企業協会と子弟教育のあさひ学園の役員を同時に担っていた。この活動は異業種との交流範囲が広く、自分の事業を側面から支援する効果があり、人生の糧になる。だからやり甲斐も生まれる。問題は本社の「速やかに採算分岐点にのせなさい。」と言う冷酷なコトバだ！我らのノミネーションは、このコトバの背後にある「現地の事情を無視した本社の性急な期待にどう対応するか」である。顔で笑って心で泣く。これは天の指令だ。

しかし仕事の話ばかりでは能がない。居酒屋の後は軽くカラオケで気分転換だ。雲田さんは、持ち歌の三曲を十八番としている。千昌夫の「北国の春」、吉幾三の「雪国」と「酒よ」この三曲を情感を込めて歌う。これでストレス発散だ。この三曲はいつも歌うから安定している。でもたまには画面から目を離して歌ってもいいだろうと思う。どこかで妙齢の



ヒトが雲田さんをジッと見つめているかも知れないのだ。

カラオケの歌い方にはそれぞれ個性があるが、雲田流はこの三曲一途だ。三曲歌い終えればその夜は終わり。他の曲には浮気しない。長居もしない。女には目もくれない。これが妻子ある不良中年のノミネーションだ。

《 雲田氏との縁 》

実は雲田さんとの縁は、日本にいる時から始まっている。私は、中学時代から海外に行くことを夢見ていたが、家には元手ががない。そのため、時間と元手の工面が必要であった。幸い、旭化成技術研究所の연구원として就職できた。徹夜を平気でこなして、夜の男のあだ名も頂戴した。若い頃は無理ができた。

元手の見通しが立ったので旭化成を退社して、農大に入学を決めた。普通の進路とは順序が逆である。同時に、あるレストランでアルバイトを始め、そこで大勢のウエイトレス社員に、凛々しく朝礼を指揮する青年時代の雲田さんと知り合った。正社員の雲田さんとバイトの自分では天と地ほどの状

況の違いがあったが、休憩中には親近感を抱いて話し合う機会もあった。70年代の安保闘争の頃である。

《 デンマークの大学へ 》

次の縁がある。私は念願であったデンマーク国際成人大学、IPCへの留学を決めた。このため農大を4年で中退し、同時にバイト先も辞めた。バイト先では、私のために盛大な壮行会まで開いてくれた。この頃は留学ブームの走りであり、私の留学が雲田さんの耳にも入った。これが刺激となり、彼はIPC留学中の私に大学情報を求めてきた。そしてナント彼は勤務していた会社を辞めて、このデンマークの大学に入学すると突



土田氏（右）と雲田氏（左）

～ 北米川柳の歴史と伝統 ～

喜怒哀楽の日系百年史 北米川柳 道しるべ

関 三脚 編より



発行：パイオニア川柳吟社
編者：関 三脚

「北米川柳は、1910年(明治43年)にワシントン州のヤキマで発祥した蛙鳴(あめい)会が先駆で、主に独身男性たちが人種差別や慣れない異国生活を、“健全な娯楽”程度の気軽さで詠み、集まったのにはじまる。日系新聞の川柳欄は当初はダジャレや冷やかしかだったが、1929年に誕生した「北米川柳互選会」は真摯な文芸活動をめざして牽引役となり、北米生まれの川柳は日系史に得意な足跡を残しつつ、記念すべき百年を経過した。

川柳の主題は「人間のこと一切」であり、俳句のような季語や切れ字の制約がなく、誰にでも作れる。写真のように情景を切り取ることも、ウッパンを晴らすことも、詩歌にもなる。まったく便利極まりない。短くて鋭いこと肥後守の刃のごとく、長く味わえることスルメのごとし、フコロに忍ばせれば笑い袋、浮世に振りかければ山椒のようにピリリと辛い・・・と、口上書きなら川柳は果てしなく続けられる。

こうして、海を渡った日本人の生き様は連綿と作品に綴られてきたわけだが、公的事件と違い、庶民史は埋もれやすく文

献も散逸しやすい。まして日本人は土地の所有を禁じられて定住できず、強制収容では身ぐるみ一つで追われた。そんな頼りない日系史にポツンポツンと残された川柳を拾い、時代を生き抜いた先人の足跡を追いかけて、喜怒哀楽を分かち合うことは可能だろうか？ 今の生活を当然とする前に、過去百年の区切りを振り返るのも、“同じレールの上にいる”私たちの責任かと思う。」

世界的な絵本作家でもいらっしゃる関三脚さんは「川柳つばめ吟社」を創設した花見富雄さん、山中桂甫さんに直接指導を受けられ、お二人の引退後には、羅新川柳の選者を務められています。北米川柳の歴史と伝統を一番熟知なさっている方です。パイオニア川柳やトンボ川柳、浪漫川柳などの皆様と共に、北米における川柳の継承発展に尽力されています。『北米川柳道しるべ』は2011年に発行されました。



NHK総合「逆転人生」～ミスター豆腐、豆腐をアメリカに広めた男～と題して、日本全国で放送されました。

お話が最後の出稿となりました。偶然にも母校青山学院大学の源流となった若きアメリカ人女性のお話でした。又「チャランポランの会」主催の『第一回LA川柳グランプリ』を本当に楽しみにしておりましたのも雲田氏です。残念ながら、川柳グランプリのための川柳は作ることは叶いませんでしたが、生前、雲田氏が残した句をご紹介します。



チャランポランの会の発起人である雲田康夫氏が一月三十一日に逝去致しました。雲田氏は日米を精力的に往来し、日本でもチャランポランの会を発展させようと尽力されておりました。「かわら版」に掲載されていたエッセイも大好評でしたが、一月十五日に発行した「かわら版」3号の「心がホッコリする本当の

多くの方に愛された雲田康夫氏のご冥福を

心よりお祈りいたします。

雲田さん ありがとう！

オーイお茶天国までは届かない
米人に豆腐食わせるへそ曲がり
ジャカラダ桜に見立て花見酒

雲田やすお

アメリカの懐(ふところ)深さに生かされて
あつ姫
 寿司ラーメン 居酒屋みんな英語だよ フジモトルミ
 トランプはジョーカーあるから強いのも フジモト アキラ
 見守られ夢を叶えた星条旗 迷人的
 アメリカで米味噌醤油欠かさない 宝積(ほうじやく)
 夢叶い大空にさけぶ 三九アメリカ ワード幸子
 豆腐バカ今や世界のバカとなる 大山千里
 夢に見たこれぞアメリカ俺の道 マイク安永
 ラブとキスハグをしながら子を育て ユキヤマモト
 お正月アメフトだらけのテレビかな 熊谷直晃
 米兵に惚れて駆け落ち三下半 蝶々さん
 東条の敵(かたき)薄らぐ市民権 青堂鈴之助
 アメリカに健康第一トウフバカ 下澤尚江
 骨埋る青春眠るこの大地 加減
 広大な地にほほ笑みの共通語 塚本めぐみ
 ヘソクリよチップはずむよ出ておいで 鈴京
 米国夢(アメリカンドリーム)探し続けて年金者 妥協庵
 他民族みんな出しゃばる誰の国 けいこ
 ハグしたが後は続かぬ英会話 京乃一人琴
 意志を継ぎ世界を包む風呂敷を 大野和彦
 異国の地時が重なり愛の国 翠尾
 里がえりはつきり表現注意され SKY
 ワンダフル移民王国USA 山口健
 アメリカで良い人ぶって財布空(から) 野島弘子
 青い空ほおばるマックのロス暮らし スミエ
 ハリウッド自由の国を謳歌する ラスロップ知恵
 決めかねる二つの祖国胸痛む アバウト
 はい来たよ夢叶えるアメリカへ 海よっこ
 古きよきアメリカに乞う大統領 ハイドン和子
 叱る子に我がアクセント直されて 仲村ふみえ
 人の子に踊りと浴衣伝えてる 史緒

老いし愛叶わぬ恋に白髪増す カツ宮里
 血は大和アメリカ生まれ米市民 吉本健一郎
 三十年ペラペラなつたは関西弁 住山妙子
 忘れるなアメリカだけが國じゃない 織田孝
 アメリカもゴジキはおるぞその通り 在米50年生
 明日も晴れ 来年今日も晴のはず 佐伯和代
 リストラでやきもきするのは両親ばかり ロスおごじよ
 おとなりのサムが変じてサラとなり おたんこナース
 アメリカの虹くろくする 選挙戦 八束春水
 我々に土台をくれた日系人 三浦尚秀
 アメリカは多彩文化の集合地 川島文恵
 富士仰ぎ感涙しばし我日系 タック西
 アメリカの建国精神皆平等 伊藤秀美

【選后感】

海を越えてアメリカの地で作られた日本語の川柳を嬉しく拝見しました。甲乙をつけてしまうのは、本意ではありませんが、「グラプリ」という競吟形式なのでお許し下さい。

高句句は、作者の心情が言外に垣間見え、自己や社会をアイロニカルに捉えた作品が占めました。同じ十七音でも、説明的、報告的で十七音の意味以外に感じられない作品は、やや句の広がりを受けてしまいました。川柳は十七音の定型詩ですので、リズムの悪い句は、最初から土俵を自ら出てしまいました。



十六代 尾藤 川柳

アメリカよいつまでやるの ババつかみ
 手を握り頭も下げて ご挨拶
 鳴り響く夜中の電話 時差知らず
 アメリカに大きく根をはり 夢かなえ
 日本語で生活できる ロスの町
 嫁はんにイエスイエスが 癖となり
 アメリカよ良き品ならば 買いますわ
 すぐそこに星条旗が 待っている
 アメリカで夢に向かって生きてゆく
 アメリカの移民史語る 柳誌繰る
 唄つくるホワイトハウス 待ったなし
 アメリカでどっふり日本語 日本町
 フリーウェイ6車線でも まだ足りぬ
 祖国はなれ 寄って集まって米の国
 アメリカは美しい国 米(コメ)の国
 雲田さん ちゃらんぼらん 海を越え
 体当りしてハグするアメリカン
 リーバイス腹に合わせりゃ 長袴
 揺れ動く 異国に生きる古希のため
 歳月や 土足に慣れた日系人
 奥深いアメリカで見る夢未来
 アメリカで二人三脚夫婦たび
 フォークにも箸にも半端な一市民
 アメリカに人種様々咲く文化
 米国は日本から見ると米の国
 アメリカに言語障害なんのその
 あちらでも夢を語るよ豆腐バカ
 売れぬものオレに任せろ豆腐バカ
 夢叶う古きアメリカ今どこに
 アメリカや米国なのに麦主食
 替え難しアメリカ暮らしの気楽さは

大田羅山人
 鶴亀彰
 綾野
 保坂ユウ子
 天地
 小笠原軽平
 テイサイ公子
 タミー米田
 内アリス
 宇都湖畔
 ハリスかずこ
 みね梅
 アロハびでこ
 井上健一
 山田赤福
 徳富未散
 西達夫
 テイピカルジャパニーズ
 白井真由美
 酒田三吉
 紙谷トム
 紙谷フミ
 定子
 金川紀恵
 悠天(ユウテン)
 笑顔(エガオ)
 飯田敦子
 飯田たかし
 シュップ美咲く
 いづみ
 五島飛魚



グランプリと十六代川柳賞に送られた尾藤川柳先生直筆の色紙と貴重な銀メダル

川柳グランプリを受賞したローパス フミコさん。



十六代川柳賞を受賞した東坪上枝さん。



池の本和美さんの歌は最高でした。



開催にあたり、ご協力頂きました佐藤製薬様、ニジャ様、松秀二郎 (SEIWA マーケット) 様、マグナス様、並びに羅府新報、日刊サン各社の皆様にご心よりお礼申し上げます

第一回LA川柳グランプリ



2020年3月7日、ニューガーデンホテルにて第一回ロサンゼルス川柳大会が開催されました。応募総数は90句、多数のご参加を心より感謝申し上げます。第一部は尾藤川柳先生の講演、第二部は入選者の発表、一部と二部の間には池の本和美さんの素敵な歌があり、川柳大会は大盛況でした。発表の仕方は江戸時代のひらき(句会)を再現したもので、貴重な発表形式に会場も大いに沸き、楽しい中で会は幕を閉じました。

市民権取つても青い目にならず 桂冠プリ

ローペスフミコ

優秀賞

英訳で初めて理解する歌舞伎

アメリカの孫に戸惑う母の笑み

ちよび髭のラストサムライ雲田逝く

十六代川柳賞

アメリカで生きるつもりのお宝くじ

佳作

人生の土俵アメリカ取り直す

転勤でまさか米国籍を取る

日米の良いところを取る在南加

ハグをするこれで私もアメリカン

アメリカでチャランポランの半世期

羅府新報賞

ペニーさえ拾うことないキャッシュレス

日刊サン賞

のびのびとらしき気にせずマイウェイ

チャランポラン賞

市民権だけど気になる我が祖国

かずみん特別賞

二か国の旗に誓いし我が命

ウノ真理

松林郁子

井出半句

東坪上枝

ロジ

楽浜とんぼ

高木子猫

吉信二

勝俣京子

千日小坊

ルーシーグーシー

森田のりえ

石口玲



第一回
LA川柳Aグランプリ入賞

上段左から石口玲、ルーシーグーシー、千日小坊、高木子猫、吉信二、勝俣京子、松林育子、井出半句(代理)
下段左から森田のりえ、東坪上枝、池の本和美、尾藤川柳、ローペスフミコ、ウノ真理



『排風柳多留』初篇
〔尾藤川柳蔵〕

句立ての句を選んだ『柳多留』は、現在のような575を形式とする十七音独立文芸に発展する契機となった点でも、画期的でした。

川柳の眼

さて、先ほどの

孝行のしたい時分に親はなし

という句は、「人生五十年」という江戸時代の世相。当時は、平均寿命38年であったともいわれま

す。社会的にも経済的にも力がつく頃には、親はもうこの世にいない儂さが句から漂います。

ところが、平成の「人生百年」時代になると、

孝行をされる白寿にする喜の字

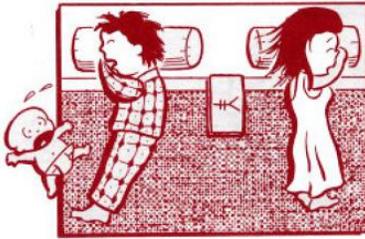
といった句が生まれます。江戸の句のパロディですが、現代社会の一端を見事に描き出します。

子ができて川の字なりに寝る夫婦

子を端に 預金を中に 寝る夫婦
Ko o hashii ni yokino naka ni neru fufu

With child at the edge
and Bankbook in the middle the
couple sleeps

By 名和 れい Nawa Rei



という江戸の句も御存じでしょう。よく眼の利いた描写ですが、時代が移るとこんな句も生まれま

す。

川柳の笑いも、時代とともに複雑化しているということですが、

さまざま時代、さまざまな状況に出遭いながら、この小さな文芸が生き続けてこられたのは、いつの場合も弱者の側に立って社会の連帯を生み出し、また、庶民の率直な思いを訴えて、ひるむことのない雑草の逞しさがあったからでしょう。

また、江戸時代、発生期の川柳には、作者というものがありませんでした。自分の言いたいこと、考えていることを誰かが代わって言ってくれる。「そうなんだ、それを言いたかったんだ」と共感した時、その句は共感者すべてのものになります。こんなふうにして

口から口へ共感の輪が広がり、ひとびとの連帯をつくり上げていきます。この場合、作者がどの誰であるかは、特に必要ありません。それが、川柳の特性です。美しい景色を見て、その気分を隣の人と分かち合うと、感動が何倍にもなる事はありませんか。また、悲しい出来事を誰かに話すと、その痛みが減少することがありませんか。川柳でも喜びを句にすると、嬉しさが二倍にもなり、悲しみを句にすると、その痛みが半分にもなることがあります。

アメリカの川柳と今後

かつて川柳は、日本人の移民とともに世界へ広がりました。祖国を離れた異国の地で、日本文化への郷愁は、様々な形で発露したと思われませんが、その一つが川柳でした。

やがて、不幸な戦争と日本帝国の崩壊に伴って、中国大陸と朝鮮半島の川柳は、失われました。

戦中に収容所内での心の交流として盛んになった川柳は、戦後、おおいに隆盛を見せましたが、日本語世代の高齢化とともに喪われました。私が訪ねた昭和58年までハワイには、ウイロー吟社がありました。その数年後に絶えています。

今は、アメリカ本土と台湾だけに残されているのが現実でしょう。

それぞれの時代にそれぞれの地域で川柳は作者の心をコトバに定着してきました。

移民史を細々つなぐ錆びたペン

宇都 湖畔

これは、昨年のLA訪問時の句会での作品ですが、「錆びたペン」に時代の変遷と作者の境遇・心情が滲んで感じられます。

川柳は、日本語の音数さえ数えられれば、特に難しい制約もなく、「575」というリズムだけで誰でも入りやすい文芸です。

260年にわたり庶民の生活のすぐ傍に在り、ニンゲンを描く詩として継がれてきました。

こんな身近でありながら、作者の人間の深さまで追求できる小さな短詩文芸を通して、人生に潤いのある「川柳のある豊かな生活」が広がればと願っています。

これを機会に川柳を友としてくだされば幸いです。



260年に渡り、庶民の生活に寄り添ってきた文芸

川柳を楽しもう

十六代 尾藤川柳

川柳は江戸生まれ

川柳は、短歌、俳句とともに短詩文芸として親しまれています。和歌千年、俳諧五百年に比べたら、まだまだ若く新しい文芸です。

宝暦7年（1757）川柳が、江戸時代の中後期、江戸の真ん中に産声を上げてから、今年は264年目にあたります。

五番目は同じ作でも江戸生れ

（宝暦7）

上野広小路は、江戸の繁華の一つとして終日人馬が行き交い、大名行列から野良犬まで、絶えることのない往来があります。「五番目」とは、平安時代に行基菩薩が阿弥陀如来を彫り、江戸近在の6

カ所に配祀した六阿弥陀五番目の札所ということで、それが繁華街のど真ん中、常楽院（現在の台東区上野4丁目「A B A B」周辺）内にあつたことから、同じ作でもここだけは「江戸生れ」であるといつたものです。後に「川柳の原点」とも言われる『誹風柳多留』が生れた上野の賑わいは、そのまま江戸の繁盛を物語り、また、川柳一派の誇りでもあります。

「川柳」は点者の俳名

当時、江戸には前句附という庶民的な文芸が流行していました。たとえば、短歌の下の句に当たる77の短句

浮世なりけり浮世なりけり

という課題（前句）を出し、

孝行のしたい時分に親はなし

といった、575の長句（前句）を案出させ、ウイットを競い合う遊びで、もともとは連歌の修練、俳諧の階梯として行われていた形式が、独立したものです。

これが万句合という一種の懸賞募集形式で、高点順に褒賞が与えられました。

当時、万句合には数多くの点者がいました。その中の一人が無名庵川柳こと柄井八右衛門（1718～1790）で、江戸の浅草新堀

端、天台宗龍宝寺門前（現・台東区浅草蔵前4丁目）の名主を勤めるかたわら宗匠として「川柳」を名乗り万句合せ興行を行ったのです。この点者の俳号「川柳」が、やがて文芸の名として呼ばれるようになりま

『柳多留』と一句独立

この前句附がのちに「川柳」の

尾藤川柳

16代目 桜木庵 尾藤川柳

女子美術大学特別招聘教授、早稲田大学エクステンションセンター川柳講座講師、川柳学会専務理事、「川柳はいふう」主宰。編著書に『川柳総合大事典』『目で識る川柳250年』『川柳のたのしみ』『鶴彬の川柳と叫び』他、テキストに『川柳染筆講座』『川柳篆刻講座』『川柳入門』『短冊の書き方と鑑賞』他。



名で呼ばれたのは、何より選集である『誹風柳多留』（以下『柳多留』）の刊行がありました。明和2年（1765）夏、呉陵軒

可有の編になる初編が、下谷山下の書肆・花屋久治郎から公刊されるや、たちまち人気となりました。川柳点のエキストも名句の宝庫ともいえるべく、これによって点者川柳の名が一気に高まり、同時期の黄表紙や洒落本とともに江戸文学の一角に確かな地歩を固めました。

朝帰りだんだん内へ近くなり

簪も逆手に持てば怖ろしい

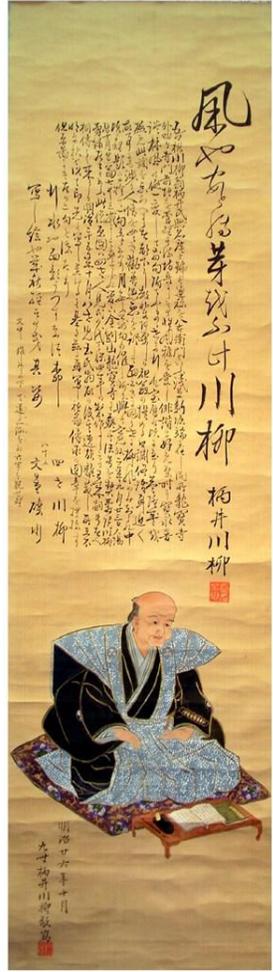
母親はもつたないが騙しよい

など「穿ち」の眼に、口調の

「軽み」を加えて「おかしみ」（これを「三要素」といいます）

に彩られた世態人情の機微が、読むものを唸らせ、聞くものの膝を打たせました。

可有の前句附の前句を省いて一



「元祖柄井川柳翁像」
〔尾藤川柳蔵〕



B級グルメ食べ歩記



宮田 慎也



The Tamale Man

1654 W. Carson St.
Torrance CA90501

『タマレマン』は、トーレンス市のウェスタン通りと、カーソン通りの交差点、東南の角にあります。赤い大きな看板が出ていますのですぐ解ります。この場所は長年どのレストランもうまいかず、確か以前はインド料理の店だったと記憶しています。2年前に『タマレマン』ができてようやく落ち着いた感じです。

外観は安っぽい造作なので、入るのをためらう感じがですが店内は綺麗でトイレも清潔です。ファミリービジネスのお店で、店に入ると赤いTシャツを着たオーナーのヴァレリオが迎えてくれます。弟とミセスはキッチンに居ます。営業時間は毎日朝8時から夜10時迄、休みなく通してやっています。ファーストフード形式なので先にカウンターでオーダーして会計を済ませて料理を待ちます。

カウンター前にいろいろな種類のサルサソースと刻まれた野菜があるサルサバーがあります。これが私のお気に入り、料理を受け取ったらここでたっぷりサルサと野菜をサイドに取りましょう。

・・・私のおすすめ・・・

①巨大なブリート、11ドル。

値段は高めですが女性なら二人分は楽にあるほど巨大です。中に入れる肉はいろいろ選べますが、カルニータスをおすすめします。カルニータスは豚肉を細長く裂いて蒸したもので、柔らかくて実に美味しいです。ハワイのプルドポークに似てますね。たっぷりのカルニータス、豆、ライスが入っていてトルティーヤで巻いてあります。ほんとに美味しいです。



②スーパータマレ、17ドル。



これはオーナーのヴァレリオの一押しで、オーナーはまずこれをすすめて来ます。17ドルはこの店で一番高価なものですが、これも二人前ぐらいあります。タマレはトウモロコシの粉をこねて作った生地です。肉のチョイスがありますが、ポークをおすすめします。タマレに、ポーク、たっぷりのチーズ、サルサ、アボカドがのっていて口の中でこの3つが混ざってなんとも美味です。

③カマロネス アラディアブラ12ドル。

訳すとシュリンプの悪魔ソース、悪魔ソースはメキシコ版マーボソースのようなもので辛さは調整できます。調整する時はオーダーの時に言ってください。シュリンプ好きの人におすすめします。



『タマレマン』はファーストフード的な店内の造りでテイクアウトが主流ですが、この店の良いところは何かを持ち込んでもOKなこと。ですから、酒類、飲み物、つまみ等を持ち込んでミニパーティーもできます。ボトル持ち込み料は一切取られません。私も友人も良く利用しますので日本人は歓迎されますよ。是非一度行ってみてください。



ジャーナリストの目



ジャーナリスト
北岡和義

読売新聞記者、国会議員秘書を経てフリージャーナリスト。ロサンゼルスで邦人向け放送局「JATV」を設立。帰国後、日本大学国際関係学部特任教授を経て現在に至る。著書に『13人目の目撃者』『海外から1票を～在外投票運動の航跡』『政治家の人間力』などがある。

乱戦に逝った「豆腐バカ」へ

思いっきり高く手を振ろう

2月1日12時9分。
昨夕（日本時間1月31日）雲田さんが聖路加病院で亡くなったそうです。

あの元気だった雲田康夫が死んだ？
臍臓ガンだった。

雲田と会食した際、真剣な顔して「北さん、思い残すことはないか」と聞いたのは横浜駅近くのレストラナだった。

ぼくは「何言っとるか。お前さんの方が先に逝くかもよ。あんたの思い残すことはなんだ？」突っ張るように言うと彼は素直に「そうだよな」と静かに頷いた。

しかし・・・それがなんと現実となった。まさに人間の運命は突如暗転する。生死は誰にも分からない。

臍臓ガンが解って一度だけ、雲田から悲鳴のようなメールが入った。文面からかなり動揺している様子が伺えた。

「去年、LAへ行った時、ぼくは話したはず。『死ぬまで（精いっぱい）生きる』と。ガンと死は関係ないよ、雲ちゃん」

そんなメールを返した。以降、彼から一切のメールは来なかった。

もちろんぼくにとつて友人の突然の死はショックだ。でもそれがどうしようもないぼくらからの人生の現実なのだ。ぼくは言葉を失った。

バカがつくほど真面目で気さくで、几帳面で真つ当な正直人生だった。

アメリカで豆腐を売る。かれは未踏の挑戦に挑んだ。仲間みんな知っている。

雲田の死をぼくはどう捉えたいのだろうか。

ぼくがガンになって以降、読売の同期の記者が（やはり）ガンで死んだし、伊豆でペンクラブのイベントが開かれた時、隣席で一緒に飲んだ

樹木希林も逝った。神田・駿河台で原発集会の後、ワインを飲んだ木内みどりも突如、逝ってしまった。

「死」という、この無なるもの。無宗教であるぼくに友人の死に与える言葉がない。もちろん自分の死に対しても何一つ準備なんかしていない。生きようとして考えているからだ。

「死」は「死」であり、「生」が終わった、という事でしかない。

しばらくして偲ぶ会をやるからと未知の森永乳業の人から電話があった。しかしそれも今回の新型コロナウイルス感染症騒ぎで延期となった。

雲田康夫とはビジネスとは別に個人的な縁があった。

彼の一家は敗戦後、樺太からの引揚者で、北海道の十勝・足寄町に住んだ。十勝と言えば北海道開拓史に残る依田勉三の晩成社が有名だが、足寄はその十勝平野にある。政治家・鈴木宗男やフオークシンガー・松山千春と同郷だ。北海道でも最も寒いと言われる陸別町に近い。父親は学校の校長だった。

雲田は足寄高校から青山学院大学へ進学したが、高校の同級生に森敏捷という人物がいた。森は北海道教育委員会の職員だったが、ぼくがリクルートして横路孝弘（衆議院議員、後に北海道知事、衆議院副議長、議長）の地元選挙区秘書となった。彼は道議会議員の現職で死んだ。

雲田のトウフ奮闘記は本人が『豆腐バカ 世界に挑み続けた20年』を書

いているから紹介は省くが森永乳業が無菌パックという腐らない豆腐で米国市場に進出した際の先兵として送り込まれたのが雲田康夫だった。

伊豆の湯ヶ島出身の作家、井上靖が晩年、第8詩集『星蘭干（せいらんかん）』（集英社刊）で書いている。井上は京都大学卒、元毎日新聞記者。軍医の息子で天城山中、湯ヶ島で少年時代を送った。彼の私小説『しろばんば』や『あすなる物語』『夏草冬濤』に詳しい。

以下、井上の言葉である。

「われわれ人間にとつて、その生涯は戦闘以外の何ものでもなく、その乱戦への展開をこそ、"人生"と称んでいるのである。

「死生、命あり」という孔子の詞（ことば）を借りれば、乱戦の中を生きるのも天命であり、乱戦の中に死するのも天命である。従って、総てを"天"に任せるほかないが、ただ一つ、乱戦のただ中で喪くなった人に対して（むかつて）、高く、高く、己が手を挙げる劇（ドラマ）だけが、天の与り知らぬ、われわれ人間世界に於ける、ささやかな永別の儀式と言えようか」

豆腐バカ・雲田康夫に高く、高く、もっと高く手を挙げよう。

雲ちゃん、オレの手、見えるか。





僕の本棚

「21 LESSONS」

—21世紀の人類のための21の思考—

ユヴァル・ノア・ハラリ著

河出書房新社



『サピエンス全史』で人類の「過去」を、『ホモ・デウス』で人類の「未来」を描き、世界中の読者に衝撃を与えた著者が、新たに「21 LESSONS」で人類の「現在」に焦点をあてた本です。以下に掲げる目次を見ただけで読みたくなる本です。

= 目次 =

I テクノロジー面の難題

1. 幻滅：先送りされた「歴史の終わり」
2. 雇用：あなたが大人になった時には、仕事がないかもしれない
3. 自由：ビッグデータがあなたを見守っている
4. 平等：データを制するものが未来を制する。

II 政治面の難題

5. コミュニティ：人間には身体がある
6. 文明：世界にはたった1つの文明しかない
7. ナショナリズム：グローバルな問題はグローバルな答えを必要とする
8. 宗教：今や神は国家に仕える
9. 移民：文化にも良し悪しがあるかもしれない

III 絶望と希望

10. テロ：パニックを起こすな
11. 戦争：人間の愚かさを決して過小評価してはならない
12. 謙虚さ：あなたは世界の中心ではない
13. 神：神の名をみだりに唱えてはならない
14. 世俗主義：自らの陰の面を認めよ

IV 真実

15. 無知：あなたは自分で思っているほど多くを知らない
16. 正義：私たちの正義感は時代後れかも知れない
17. ポストトゥルース：いつまでも消えないフェイクニュースもある
18. SF：未来は映画で目にするものとは違う

V レジリエンス

19. 教育：変化だけが唯一不変
20. 意味—人生は物語ではない
21. 瞑想—ひたすら観察せよ

読むだけでなく「考える」ことが大切。今の世界の動向はわからない事ばかりです。21世紀のこれからの時代はどのように変わっていくのでしょうか？ 昨年、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが、NHKラジオで話した「電池が起すエネルギー革命」を併せて読むと、さらに21世紀の姿が浮き上がってきます。シニアの残した未来への功罪をチェックし、今からでも遅くないから補足出来ることはしなければならぬと思いました。

も実は、雲田さん肝入りの企画でした。その遺志を見事に果たしたのは、鶴亀さんを筆頭に、佐伯さん、北村さんの内助の功でした。雲田さんも天国で喜んでくれている筈です。また、この会の為にマスコミ各社、並びに景品を戴いた企業各社の好意も忘れることはできません。「まだ生まれて、右も左も行き先が定まっていな

い今、この混沌とした世の中で、「我々シニアは何をしたら良いのか」を、命ある限り考え続ける所存です。雲田さんの逝去に遭遇し、「一日一生」の気持ちで生き

《 一日一生 》

ようとう真剣に思いました。もう迷っている時間などありません。自分がしたいと思ったことを躊躇なく行動に移すのみです。それが自分の為であつても人の為であつても…。

私と同年の野村克也監督が今年亡くなりました。彼が生前残した言葉の中で「金持ちになるのは三流、名誉を得るのは二流、人を造る(残す)のが一流」というのがあります。雲田さんは正にこの三つ全てを見事に残してあの世に逝きました。残された私達は、雲田さんの遺志を継いで頑張っていく義務があると思っています。皆様の変わらぬご支援をお願いします。次第です。



行動するシニアをめざして！

鳥居 欣一

アメリカ日系社会の重鎮であり、我が『チャランポランの会』の盟友であった雲田康夫さんが1月31日に日本にて逝去しました。このニュースを聞いた時、「まさか」の一語でした。今でも信じられません。雲田さんとの付き合いは彼が赴任して来て以来です。ここ十年程は、ここロサンゼルスで、時には東京でと、月に一度くらいのペースでランチをしたり、又は軽く一杯やる程度のお付き合いでした。以前ジャパン・エキスポをやられていた増田知生さんも加わって、三人で会うことが殆どでした。ビジネスの話は全くなく、たわいもない男の会話でした。

《 ちゃらんぽらんの会 》

数年前、何かシニアの為に役立つことが出来たらと話し合ったことがありました。『平成ラスト

サムライ』の会を鶴亀さん達と立ち上げ見事に成功させた後、私の事務所に立ち寄り、「鳥居さん、シニアの為に何かしよう」と前に話し合ったこと、あれやろう！と言われ、私はあの会話を覚えていた。あれよあれよと言う間に『チャランポランの会』が設立され、活動することになりました。雲田さんの偉大さをひしひと感じました。世の中には、計画を練りに練っても行動に移せないことが多々あります。「行動しながら、内容を充実して行こう」というのが雲田流で、私は雲田さんのその流儀に惚れ込みました。この人と一緒に行動すれば必ず何か良いことが出来ると確信し、この会の活動にのめり込んでいきました。もう一人の盟友、鶴亀さんもこれまた凄い方で、この二人が居

ればこそ『チャランポランの会』は機能していると言っても過言ではありません。雲鶴コンビの絶妙さは筆舌に尽くし難いほどです。

会の名前を『チャランポランの会』と名付けたのも雲田さんでした。名前の由来の一つは、超真面目な雲田さんの「チャランポラン」にやっけて行きたいという願望、もう一つは、決まり事に縛られることなく気ままに運営していることでした。

《 雲田氏が病に倒れる 》

そんな雲田さんは、一年前頃から体調を崩していたようで「お酒も美味しく感じられなくなった」とこぼしていました。お医者さんにも診て貰っていましたがなかなか病気を突き止められず、正式な診断が出た時は、全く予期もしない「膵臓がん」でした。本当に本当に残念です。

雲田さんがまだ元気で生きて居

られたなら、今後の人生はこの『チャランポランの会』一本に絞る、会社運営等の他の仕事は後進に譲る気持ちでいたのではないかと推察しています。なぜなら、雲田さんの『チャランポランの会』に賭ける情熱が人一倍熱かったからです。私の好きな言葉「正直・親切・熱心」、これを地で行く人生が雲田さんの偉大さでした。正直言つて、雲田さんの居ない『チャランポランの会』の今後にすごく不安を感じます。そんな矢先、雲田さんと半世紀来の友情を保つ土田三郎さんが、「雲田さんの為なら」と、会の幹事としての参加を申し出て下さいました。また、人望の厚い宮田慎也さんも参加して下さいました。全てひとえに雲田さんの人徳の現れです。

《 第一回L A川柳大会 》

去る3月7日、『チャランポランの会』主催「第一回川柳大会」を開催致しました。この度、石口さんのご尽力で、十六代尾藤川柳氏が自費でご参加下さり、大盛況の川柳大会と相成りました。これ

心がほっこりする

ほんとうのお話

絆と懐かしさ

ハーバーフリーウェイ (HIHO) を南下し、ターミナルフリーウェイ (CA-47) に乗ると、すぐにビンセント・トーマス・ブリッジが出て来ます。その橋を越えると、ターミナル・アイランドです。ここには戦前3千人を越える日本人一世や日系二世が住んでいました。男共はマグロ業に頑張り、女共は缶詰工場で働きました。八百屋があり、クリーニング屋があり、写真屋がありました。学校やお寺や教会もありました。今は影も形もありません。わずかに一つのメモリアルが建てられているだけです。ターミナルアイランドメモリアル モニュメントです。2002年に建てられました。

Terminal Island Memorial Monument



早春のある日、このモニュメントを訪れました。Terminal Island Japanese Fishing Villageのサインが道案内をしてくれました。時折貨物トラックが走るものの、周りは何となくさびれた印象です。数個のサインに従って進むと左手にメモリアルが見えて来ました。

コンクリートの鳥居が立ち、二人の漁師のブロンズ像があります。壁には当時の村の賑わいと繁栄を伝える写真と英語での説明が飾られて

います。「沖は黒潮 魚もおどる 父母の辛苦を偲びつつ 永遠に称えん いにしへの里」の和歌もありました。私は、海辺を眺めながら、当時の様子を想像しました。威勢の良い漁師達の元気な声や、自由に遊び回る子供達の歓声が聞こえるようでした。また缶詰工場で働く女達の笑い声が聞こえるようでした。和歌山の紀州弁や静岡弁などが聞こえるようでした。人種偏見による差別や排日感情が盛んな中で、この漁師村には一種の楽園でした。しかし、その楽園は1941年12月の真珠湾攻撃、そして1942年2月の米国大統領令により、消えました。家々はブルドーザーで潰され、土地は連邦政府の管轄となりました。

モニュメント建立

真珠湾攻撃から30年経った1971年、楽園の記憶を持つ人々が、昔の絆を取り戻すべくターミナルアイランドクラブを設立し、毎年新年会とピクニックを楽しみ、昔の懐かしい思い出を語り合っています。そしてその記憶を残すべく、広く基金を募り、2002年に建立したのがこのモニュメントです。それを率いたのは二代目の会長を務めたユキオ・タツミ(巽幸雄)さんでした。タツミさんは、1985年から26年間会長を務めた後、2016

年に95歳でお亡くなりになりましたが、生前の彼のインタビュー音声をチャランポランの会のボランティア世話人である佐伯和代さんから聞かせて頂きました。いろいろ印象に残る話一杯ありました。

日系人野球チーム

ターミナル・アイランドには凄強い強い野球チームがありました。

The San Pedro Skippersと言ったそうです。連戦連勝で他の地区の日系人野球チームの中ではいつもチャンピオンだったそうです。その名譽あるチームで二塁手として活躍したというのがタツミさんの生涯の誇りでした。彼等はマンザナーの収容所の中でもTerminal Yogoresという名を付けたユニフォームを作り、野球を楽しんだそうです。エンジン油や魚の汚れの付いた服装をからかわれて彼らは戦前のように呼ばれていました。彼等の強い仲間意識、活力の表れでもあります。彼等の元氣さ、一本気さ、正直さ、誇り、頑張り、そして深い絆を感じさせるエピソードです。



1941 - CALIFORNIA STATE CHAMPIONS SAN PEDRO SKIPPERS

文責 鶴亀 彰

チャランポランの会は何をする会？

チャランポランの会は、シニアを応援する会です。

① 会報誌「かわら版」を通して、シニアの方々を元気にしていきます。② 会員同士の交流の場を提供し、楽しみや生きがいを持てるようにします。③ シニア向けの講演会、イベントを開催していきます。

会員になるには？

原則シニアの方であれば、どなたでも会員になれます。別紙の入会書に必要事項を記入し、チャランポランの会まで郵送して下さい。なお、入会書がない場合は ① 氏名 ② 住所 ③ 電話番号 ④ かわら版を何でお知りになったか ⑤ 出身地 ⑥ Eメールアドレス (オプション) ⑦ 生年月日 (オプション) をお書きの上、チャランポランの会まで郵送してください。Eメールでお申し込みの場合も上記の内容 (①～⑦) を忘れずにお書き下さい。

【郵送先】 CharanPoran USA
22301 S. Western Ave. Suite 104
Torrance, CA 90501

【Eメール】 charanporanusa@gmail.com

現在、会費はありませんので、皆様からのドネーションをお受けしております。金額は問いませんので、ご協力よろしくお願い致します。チェックの宛名はKINICHI TORII 又はAKIRA TSURUKAMEでお願い致します。今までドネーションして下さいました皆様、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

チャランポランの会の特典

1年に4回発行される会報誌「かわら版」が届きます。
講演会やイベントなどに会員特別価格でご参加頂けます。

「かわら版」への投稿方法

- 川柳、短歌、俳句：お一人1句 ●読者の声：200字以内
- エッセイ：800字以内

住所・氏名・年齢・電話番号を明記。郵送、又はEメールでお送りください。なお、紙面の都合で内容を割愛、又は一部編集させていただく場合もございますのでご了承下さい。なお、投稿が多数の場合は、チャランポランの会で選定させていただきます。

「かわら版」へのご意見ご感想

ご意見、ご感想をお気軽にお寄せください。CharanPoran USA迄郵送いただくか、又はEメールでお送り下さい。今後の会の参考にさせていただきます。

2020年7月1日「かわら版」5号、発行予定！

会の名称 『チャランポラン』

私達、発起人は二十代から六十代まで長い間、一応真面目に仕事し、子供を育て、一社会人・一家庭人としてそれなりの責任を果たして来ました。ふと気が付いて見ると、もう高齢者です。昔の元気はなく、体力も落ちました。これからの人生をいかに生きるかと考える時、やはり明るく元気に過ごしたいものです。それには今までの常識の枠を離れ、自由な新しい発想や考え方で生きるのが良いのではと思います。

その理想が「チャランポラン」です。一見、「真面目や責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思います。認知症防止のためにも、是非皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！

チャランポランの会

- 発起人
鳥居欣一、雲田康夫、鶴亀彰、高山秀男
- 運営委員
鳥居欣一、鶴亀彰、土田三郎、宮田慎也
- かわら版／編集
北村亜矢、佐伯和代

CharanPoran USA

22301 S. Western Ave. Suite 104
Torrance, CA 90501 USA

☎ 310.347.7300

(メッセージを必ずお残し下さい。)

Email: CharanPoranUSA@gmail.com

www.CharanPoranUSA.com

表紙は大川敏子さんからご提供いただいた着物柄をアレンジしました。

シニアのシニアによるシニアのための会報誌

ちやらんぽらん

かわら版

特集 川柳を楽しもう

十六代目 櫻木庵 尾藤川柳

心がホッコリする

ほんとうの話

チャランポランエッセイ

素敵な人見つけた！

2020

4号

令和2年4月1日

